評議員会議事録

【評議員会議事録】
日　時：2005年1月22日(土)11:00～16:00
場　所：国立天文台三鷹南研大会議室
出席者：井上，太田，岡村，加藤，小山，柴田，須藤，千田，福井，舞原，牧島，吉井，安東，家，梅村，大橋，小杉，佐藤，観山，山本　以上20名
有効委任状提出者：海部，高橋，高原，池内，谷口　以上5名
他に理事会から，祖父江理事長，花岡，杉山，北本，関井理事，及び山岡天体発見賞選考委員長，東條事務長が参加した．
議事に先立ち，議長及び署名人を選出した．
議　長：小杉健郎
署名人：観山正見，須藤　靖
(付記：評議員会当日は署名人として観山評議員ではなく加藤評議員が選出されたが，会議後議事録への署名の前に加藤評議員が日本天文学会を退会し署名人を辞退したため，観山評議員を新たに署名人とすることで評議員が合意した)

報　告

1. 前回議事録の確認(資料1)
杉山理事より前回(2004年9月22日)の評議員会議事録が報告され，承認された．
2. 災害援助法適用地域の特別措置の確認(資料2)
関井理事より，新潟中越地震および台風23号被害地域に在住もしくは勤務の会員を対象として申し出により2005年度の会費を免除する措置をとり(月報12月号に投げ込み及び学会WWWページにて周知)，3名から免除申請がありこれを認めたこと，今後も同様な事態に対しては同様の措置をとることにしたい旨の報告があった．
3. 教育問題懇談会について
祖父江理事長より，前回の年会をきっかけとした評議員会の議論にもとづき，教育問題懇談会を組織したことについて報告があった．天文教育に関し今後の教育システムや学習指導要領への提言を行うことを目的としており，何らかの声明を今年中に出したいと考えている．この1～3月には現状認識を深めるためのシンポジウムを開催している．なお，教育問題懇談会が設置されたことに伴い，同懇談会と教育担当理事，天文教育委員会との役割と権限の分担があいまいになっており，一部に混乱が見られることに注意喚起の発言があった．
4. 世界物理年日本委員会について
祖父江理事長より世界物理年日本委員会について報告があった．今年はアインシュタインの奇跡の年から100年を記念して国連の決定で世界物理年となっている．日本でもいくつかの学会から担当者を出し，科学技術館に事務局をおいて日本委員会としての取りまとめを行っている．天文学会も参加しており，この関係の会議に出席している他，学会としていろいろなイベントへの講師の派遣，ブースの設置等を行うことを検討している．今後も松田前理事長が対応窓口として委員会等に出席するが，必要に応じて祖父江理事長，あるいは井上副理事長，杉山理事，田理事が対応する．学会としては，日本委員会とは財政的には独立性を保ちつつも，学会の行事の機会等を活用し世界物理年にできるだけ協力を行っていく．
5. 次回以降の年会について
杉山理事より以下のように報告された．
明星大学がホストとなる2005年春季年会については具体的な準備が進んでおり，公開講演会については平山　淳氏・佐藤勝彦氏に講演を依頼しており，後援頂く団体も決まっている．
北海道大学がホストとなる2005年秋季年会については，日程は2005年10月6日(木)～8日(土)，場所は札幌コンベンションセンター，懇親会は札幌ビールファクトリーを予定している．公開講演会は10月9日に行い，講師は，世界物理年の一環としての行事という位置付けであることを念頭に，佐藤文隆氏・土居　守氏に依頼している．
和歌山大学がホストとなる2006年春季年会については，日程を2006年3月27日(月)～29日(水)，公開講演会はそれに先立って3月26日(日)に和歌山県民文化会館にて開催，という案で検討中である．
九州国際大学がホストとなる2006年秋季年会について，9月19日(火)～21日(木)を日程の候補として検討を行っている．
2007年春は東海大学で，2007年秋は岐阜大学で開催する，と理事会において決した．
2008年春は学会100年となるため一応東京を想定していると報告されたが，東京に限る必要はないのではとの異論も出された．なお，これに伴い年会の将来像について意見交換を行い，アジア圏のどこかあるいはハワイなど海外での開催は可能性はないのか，外国と共同で開催できないか，予稿集を英語にしたり一部のセッションを英語で行ったりすることも考えられるのではないか，学会によっては完全英語化したところもあるがその可能性はないか，などの意見が出され，今後継続して検討することとした．
6. その他
(1)2004年度早川基金選考結果の報告(資料3)
2004年度早川基金選考結果が，前選考委員長である北本理事より報告された．

議　題

1. 2004年度各賞受賞者の決定(資料4)
(1)山岡天体発見賞選考委員長より，天体発見賞，天体発見功労賞，および天文功労賞候補の選考結果が報告された．天体発見賞5氏11件，天体発見功労賞3氏4件，天文功労賞1氏1件(長期的な業績)の候補が推薦され，意見交換の後，それぞれ下記のような受賞者が満場一致で決定された．
天体発見賞　板垣公一(5件)，串田麗樹(2件)，西村栄男(1件)，高尾　明(2件)，多胡昭彦(1件)の各氏
天体発見功労賞　中村祐二(2件)，板垣公一(1件)，櫻井幸夫(1件)の各氏
天文功労賞　長期的な業績として武蔵高等学校中学校太陽観測部．なお短期的な業績は今年度は推薦するものはない．
(2)研究奨励賞選考委員である須藤評議員より，研究奨励賞候補者の選考結果が報告された．8名9件の推薦のうち3名が候補として委員会により推薦された．受賞のレベルに達していると評価される方が多く，3名に絞るのに苦慮したとの報告が委員会よりあった．意見交換の後，満場一致で下記のように決定された．
研究奨励賞　片岡　淳，河北秀世，福重俊幸の各氏
(3)林　忠四郎賞選考委員長である佐藤評議員より，林　忠四郎賞および欧文報告論文賞の候補者の選考結果が報告された．欧文研究報告論文賞については，引用の高い論文は委員長より事前に推薦をお願いする方策を採っているとの報告があった．欧文研究報告論文賞は8件7編の論文，林　忠四郎賞は5件の推薦があった．意見交換を行い満場一致で下記のように決定された．
欧文研究報告論文賞　Kodaira et al., PASJ 55, L17-L21 および Mineshige etal., PASJ 52, 499-508 の各論文
林 忠四郎賞　須藤 靖氏
なお，選考委員会から，林 忠四郎賞に関して，過去の受賞者の例からも分かるように選考にあたっては「独創的でかつ分野に寄与するところの大きい研究業績に対して授ける」(内規第2条)という賞の趣旨に照らして，すでに評価が確立した大分以前の研究業績よりもそれぞれの研究分野での現在の寄与の大きさを重視しているので，とくに今後更なる研究が期待される人材をもっと多く推薦されることを期待したい，という要望が出され，意見交換を行った．委員会からの要望はもっともであり，推薦を募る段階で受賞時の年齢を含んだ過去の受賞者リストを付けた推薦依頼文を出すなどの方法を模索することができるのではないか，などの意見があった．
2. 2004年度事業報告書案(資料5)
杉山理事より事業報告書案について説明があり，質疑応答の後承認された．なお，PASJは会員から寄託されたもの(76部)を購読料支払いが困難な発展途上国の研究機関などに寄贈している (46部) が，経済社会の発展に伴い購読を依頼すべきところが出てきている可能性に鑑み，寄贈先について再検討が必要ではないかとの意見がだされた．
3. 2004年度決算報告書案(資料6)
関井理事より決算報告書案について説明があり，質疑応答の後承認された．
4. 2004年度監査報告書(資料7)
家監事より，2005年1月6日に実施された監査の結果，上記事業報告書案および決算報告書 案が正当であることが認められた旨の説明があり，承認された．
5. 正会員(学生)等の会費見直しについて(資料8)
関井理事より，正会員(学生)と準会員の会費見直し(値下げ)の提案について説明があった．印刷費縮減などの努力の結果ここ最近は学会会計が黒字になっていることに鑑み，黒字分の一部を正会員(学生)会費を13,000円から10,000円へ，準会員会費を8,000円から7,000円に改定して還元するという提案である．この提案に対し，管理費を含む学会財政への正会員・正会員(学生)・準会員それぞれの寄与のあり方を明らかにして正会員会費のみを改訂しない理由を明確にする必要がある，PASJ投稿料値下げ・学会登壇料値下げや他の事業を起こす可能性も検討すべきである，また会費や各種料金の改定にはその影響が一時的なもの，長く影響のあるものがあることにも留意する必要がある，など様々な意見が出された．また，PASJ投稿料の値下げは学術雑誌の発展方策として重要であるとの観点からも位置付けて欲しいとの意見があった．今回の正会員(学生)会費及び準会員会費の改定提案そのものの方向性については否定的な意見はなかったものの，2006年度からの会費改定の決定は今年夏の評議員会で決定すれば間に合うことから，理事会で上記の様々な意見を勘案しつつ会費・各種料金の改定及び新規事業の開始等の全体像をまとめて改めて評議員会に提案し，議論することとなった．
6. 会費に関する細則の変更
会費変更案を採択しなかったので審議なし．
7. 日本学術会議会員候補者推薦内規の廃止(資料内規集)
内規の前提となっている学術会議側の会員候補者推薦方法が変更となったことに伴い，現在内規が無意味となっている．昨年の場合は，学術会議からの通知で天文学会は候補者8人の情報を連絡するのみとなったため内規に従う候補者決定は不可能となり，理事・評議員による選挙の結果に基づいて8名の候補者の研究者情報を学術会議に通知した．このことにもとづき杉山理事より内規そのものを廃止することが提案され，承認された．なお，候補者推薦につけられた付帯条件により必ずしも得票の上位者を推薦できたわけではなかったことについて，理事長名で候補者選考委員会委員長宛に改善の要望書を送付した．
8. 春季定期総会の議題等
春季定期総会の議題として，事業報告案と決算報告書案，監査報告，その他若干の報告事項を予定していることが杉山理事より報告され，承認された．
9. 会費未納者の除名について(資料9)
杉山理事より資料にもとづき説明があり，承認された．
10. 創立100年事業WGの立ち上げについて
春季定期総会の議題として，事業報告案と決算報告書案，杉山理事より創立100年事業WGの立ち上げの説明があった．既に進んでいる100周年記念出版とは別に，あらたな事業としてひとつは天文学会100年史のようなものを考えており，尾崎洋二氏に編纂のとりまとめをお願いすることについて内諾を得ており，また記念切手を出すという案については若松前理事長・黒田副理事長が担当する．この他，記念式典＋シンポジウム，月報100年記念号といった案がある．これら事業の検討・推進の活動を行っていくワーキンググループを理事長・副理事長，杉山理事，尾崎元理事長，若松前副理事長で構成することが報告された．月報を用いて100年事業を広報すべし，という意見という意見もあった．
11. Asian-Pacific Journal について
杉山理事より経緯の説明がされた．Asian-Pacific Journal の刊行が検討され始めており，日本の参加も期待されているが，とりあえず蜂巣PASJ編集長と有本PASJ編集顧問がこれに関するワーキンググループには参加することになっている．まだ未知数の部分が多いため，状況を注意して見つつ理事会が慎重に対応していくこととなった．学会としてはPASJは柱となる事業であり，むしろもっとアジア圏からの投稿を呼び込めないか，日本人ももっとPASJに投稿する努力をするなどPASJの地位向上などができないか，という議論があった．
12. その他
(1) 科研費実績調べについて
家評議員より，科研費に代表される外部資金がどのように配分・獲得されているかは研究現場にとって切実な問題であり，学会としてその実績を把握しておくことが重要であるので，学会として実績把握のための作業ができないか，という提案があり，意見交換を行った．基礎データの蓄積が重要であることには異論がないが，学術振興会からの公表情報で間に合わないのか，学会のマンパワーの実情では誰が何をどのように担当するかを決め難い，物理学会では科研費審査員が学会員に獲得実績について報告する義務を設けている，等の意見が出されたが，具体的な結論を得るにはいたらなかった．
(2) インド洋での津波災害関連
本年 Asian-Pacific IAU Regional Meeting がインドネシアのバリ島で開催が予定されているが，スマトラ沖大地震によりインドネシアで大災害が起きている状況下で本当に予定通り開催できるのか，また学会としてインドネシアへの支援の動きはあるのか，等が話題になった．情報がなく詳細が不明であるため，評議員から Regional Meeting の日本人SOCメンバーを通じて正式に問い合わせをすることとなった．
(3) 次回以降の日程
次回は3月29日(火)，春季年会会期中の昼休み明星大学で開催する．次々回は7月9日(土)，国立天文台にて開催する．

2005年2月23日
議　長　小杉健郎
署名人　観山正見
署名人　須藤　靖